

2025.10.23 総合教育会議

ヤングケアラー支援について

立川市 福祉部

地域福祉課長 西上 大助

1. ヤングケアラーについて

家族の介護その他の
日常生活上の世話を
過度に行っていると
認められる子ども・若者

? ヤングケアラーって?

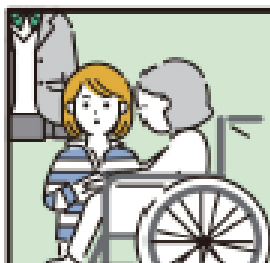
「ヤングケアラー」とは、本来大人が担うと想定されているような家事や家族の世話を日常的に行っている子どものこと。
責任や負担の重さにより、学業や友人関係などに影響が出てしまうことがあります。



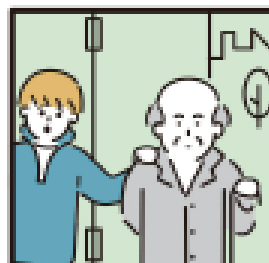
障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている。



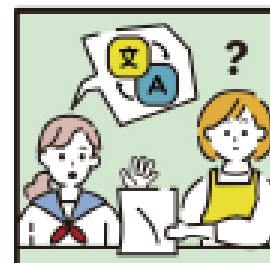
家族に代わり、幼児きょうだいの世話をしている。



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている。



目の離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている。



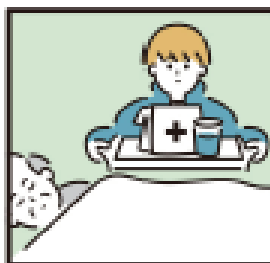
日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている。



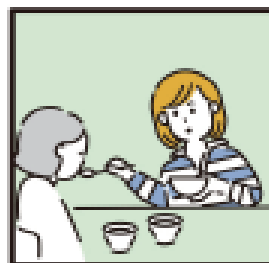
家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている。



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している。



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている。



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている。



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている。

1. ヤングケアラーについて

国の調査結果からみるヤングケアラーの現状

- 中学校2年生の17人に1人
⇒ヤングケアラーは特別な存在でないことを理解する
- ケアが必要な家族と一緒に暮らす状況は誰にでも起こり得る状況となっており、ケアラー自体の数が増えている
- その中で子どもがケアを担う状況も生じる

1. ヤングケアラーについて

なぜ支援が必要か

家族のことを手伝うのは当たり前？

- 家族のケアを担うことで、例えば勉強する時間が足りない、友だちと遊ぶ時間がない、眠ることができない、自分のことを優先することを諦めるなど、子どもの育ちや将来の自立に影響をきたす恐れがある

「ケアをしていること」が問題なのではなく、それによって身体的・精神的負荷や生活上の影響が出ていることがポイント

1. ヤングケアラーについて

支援に必要な視点～担当課として大事にしていること～

- 負担を減らす、気持ちを理解する
- × ケアを止めさせる、かわいそうな子を助ける
- ✓ ケアが必要な人やその家族も含めて支える
- ✓ 子どもにケアをさせている＝悪者ではない
- ✓ 過去・未来の時間軸の連続性を意識する

つながり続ける支援 = 伴走型支援

2. R6「子どもの生活についてのアンケート (ヤングケアラー実態調査)」実施概要

調査対象	市立小学校・中学校の小学5年生から中学3年生の全ての児童・生徒	
対象者数	小学生 2,909人 中学生 3,795人	
回答結果・ 回答率	■小学生 ・回答数 1,939件 ・回答率 66.7%	■中学生 ・回答数 2,442件 ・回答率 64.3%
調査期間	令和7年3月3日(月)から3月21日(金)まで	

2. 小中学生向け ヤングケアラー実態調査でみえたこと

- 「世話をしている家族の有無」について、「いる」と回答した生徒数は、小学生186人(回答者の9.6%)、中学生99人(同じく4.1%)となった。
- 「世話をすることに変化を感じているか」という設問では、「身体的に変化」「精神的に変化」「時間的余裕がない」という回答があり、世話をしている家族がいる児童・生徒の1割強がなんらかの変化を感じている。

2. 小中学生向け ヤングケアラー実態調査でみえたこと

- 「助けて欲しいこと、必要としている支援」では、「自分のことについて話を聞いてほしい」「学習をサポートしてほしい」「進路など将来の相談にのってほしい」という声が多かった。
- ヤングケアラーの認知状況では、小学生の67%、中学生の46%が「聞いたことはない」という回答であった。

2. 小中学生向け ヤングケアラー実態調査でみえたこと

「ヤングケアラー支援を広げていくために必要だと思うこと」 「アンケートに関する感想」の自由記述

- ・最も多い回答はポスター、CM、チラシなどの周知・啓発を進めること
- ・アンケート内でヤングケアラーの記載を見て、ヤングケアラーについて初めて知ることができたという意見があった
- ・アンケートを続けて欲しいといった声や、アンケートを通して心がすっきりした、自分のことを気にしてくれていると感じて安心したという回答が少数ながらあった。

3. ヤングケアラー支援の流れ

気づく

支援が必要となる可能性のあることに気づく

※無理に聞き出さないように注意が必要

寄り添う
(話を聴く)

子どもが話すのは信頼している身近な大人

まずはその思いを受け止める

つなぐ

窓口となる担当部門に、支援が必要なヤングケアラーの情報を集約する

支援する

関係機関で調整のうえ、支援(経過観察を含む)

※支援を提供する段階では、本人同意が基本的に必要

見守る

身近な関係機関において見守りを継続し、状況変化に対応する

- 学校(担任の先生、養護教諭、SC、SSW ほか)
- 子どもや家庭に関わる支援者

【情報の集約・支援の調整】

- 地域福祉課
 - 子ども家庭センター
- 【サービス等の提供で世帯に関わる】
- 各種福祉関係機関

4. 市の現在の取り組み

①相談体制の整備、具体的支援に向けた連携

地域福祉課・子ども家庭センター・スクールソーシャルワーカー（指導課）の連携体制の協議

②実態把握

小中学校向けアンケート、介護事業者等への実態調査の実施

③周知啓発

- ・相談窓口をホームページ等で周知
- ・教職員向けにヤングケアラー研修を実施